

誉田 恵理 助教 博士(保健学)

Eri Konda

✉ eri.konda@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

老年看護学、糖尿病、セルフケア、オーラルフレイル

プロフィール

2013年 金沢大学附属病院 看護師
2018年 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 助教
2019年 金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 博士後期課程 修了

研究分野

老年看護学、慢性看護学

所属学会

日本老年看護学会、日本認知症ケア学会、日本糖尿病教育・看護学会、看護実践学会、日本看護科学学会

専門分野・研究分野

糖尿病を抱える高齢者の「食べること」への支援に関する研究

「いかに自立して健康で暮らせるか」という QOL を考慮した健康寿命の延伸が、現在社会で強く求められています。しかしその健康寿命を短縮する大きなリスクのひとつとして糖尿病があります。

私は、高齢期に糖尿病と診断された方に対し、自分らしさを大切にしながら生活できるような療養支援のありかたに関する研究に取り組んでいます。その中で、高齢糖尿病の方の QOL を最大限に高めるためには「食べること」への支援が重要だと強く感じ、歯周病の問題に着眼しました。糖尿病患者の歯周病罹患率は糖尿病でない人の 2～3 倍高く、高血糖持続により歯周病が悪化し、治癒ににくいといわれています。歯周病はオーラルフレイル（口腔虚弱から生活機能の低下をきたす状態）の要因の一つであり、高齢者の QOL の低下につながることから、オーラルフレイル予防に関する研究に取り組んでいきたいと考えています。

研究内容

早期から取り組む健口づくりでオーラルフレイル予防を目指した介入プログラムの作成

高齢期に糖尿病と診断された方に対しての、面接調査や診療場面の観察、自記式質問紙調査から、糖尿病の療養生活において「食べること」は、非常に大きな意味をもつことを明らかにしました。その結果から、その人らしく老いることを支えるためには、「食べること」を整えていくことが必要不可欠だと考えました。

そこで、本人の美味しく食べ続けたいという思いを実現していくために、糖尿病と歯周病の双方向的悪循環を断ち、オーラルフレイルやさらに重症な口腔機能低下・障害への進展を出来るだけ早い段階で食い止める健口づくりを目指します。まずは地域で暮らす高齢糖尿病の方の口腔環境を含む摂食嚥下機能の現状を把握し、オーラルフレイルへと進展しないための有効な介入方法を探っていききたいと考えています。



図1. 2019年度世界糖尿病デーに公立小松大学中央キャンパスがブルーライトアップされた様子



「食べて、笑って、自分らしく老いる」を支える

シーズ・地域連携テーマ例

- 高齢期に糖尿病診断を受ける患者の療養支援
- 地域高齢者のオーラルフレイル予防

論文

- Development of a Measurement Scale to Evaluate Self-Care Stability for Patients Diagnosed with Type 2 Diabetes at an Older Age, Konda E et al., Open Journal of Nursing, 8, 905-917, 2018
- 金大式パートナーシップによる糖尿病患者への療養支援の実態、藤田 結香里、越野恵理、長田春香、竹内弘美、日本看護学会論文集：慢性期看護、46, 142-145, 2016
- 診断時高齢の2型糖尿病患者がセルフケア行動を習得していく過程での経験、越野恵理、稲垣美智子、多崎恵子、日本糖尿病教育・看護学会誌、第19巻第2号、111-120, 2015

講演・口頭発表等

- 診断時65歳以上の高齢2型糖尿病患者がセルフケア行動を習得していく過程での経験、越野恵理 他、第18回日本糖尿病教育・看護学会学術集会、2013

競争的資金等の研究課題

- オーラルフレイルを見据えた糖尿病高齢者の新たな歯周病予防介入プログラムの確立：科学研究費補助金（若手研究）2019-2027（産休・育休のため途中中断・延長あり） 代表者

社会貢献活動

- 2019年度世界糖尿病デー 糖尿病啓発イベント＆ブルーライトアップ企画（主催：公立小松大学、共催：小松市医師会糖尿病連携推進協議会）（2019年11月14日）
- 小松市オーラルフレイル研究会（2018-）
- 石川県野々市市介護認定審査会委員（2011-2012年度）
- 北陸小児糖尿病サマーキャンプ：昭和50年（1975年）に、日本では9番目の開催としてスタートし、毎年8月に3泊4日程の日程で開催されています。幼児から高校生までの1型糖尿病を抱える子どもたちと、それを支える多くのボランティアスタッフが集って行われます。私もボランティアスタッフとして携わらせてもらっています。（2011-2013年度、2016年度、2018年度参加）



図2. 北陸小児糖尿病サマーキャンプにて朝の日課、ラジオ体操を行う様子